

公益財団法人国際超電導産業技術研究センター

平成 28 年度事業計画書(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

公益財団法人国際超電導産業技術研究センター (ISTEC) は、解散に向けて平成 27 年度受託事業を完了される等、従前から行ってきた事業を完結・終了する。なお移管・承継すべき事業は、移管・承継する。

I. 超電導に関する研究開発

1. 線材・パワー応用分野

1) 高温超電導コイル基盤技術開発事業のうち共通基盤技術開発【日本医療研究開発機構 (AMED)】

本研究は、ISTEC がその組合員である「産業用超電導線材・機器技術研究組合」が受託したものであるが、平成 27 年度が最終年度で研究開発は終了しており、平成 28 年度は、予算の精算や取得設備の処理等の業務を行う。

<参考> 線材・パワー応用研究部の研究員は、4 月 1 日、産業技術総合研究所に移籍し、研究設備も順次移管する。

2. 物性・デバイス応用部門

1) 高精度物理探査技術の開発・SQUITEM 3 号機改良機器開発 (繰越)【石油天然ガス・金属鉱物開発機構 (JOGMEC)】

本研究は、平成 24 年度に実用機開発された SQUITEM3 号機について、装置の改良として 3ch 化による鉱床探査精度の向上等を目的に平成 26 年度から受託したものであるが、平成 27 年度事業の実施中に不具合が発生したため、その完了を 28 年 5 月中旬まで延長し、コネクタ、ケーブルの改良等、及び野外実証試験を行う。

<参考> 物性・デバイス研究部が従前受託していた S イノベや SIP 事業等について、それらの平成 28 年度事業は、2 月に設立された「超電導センシング技術研究組合」で継承・実施される。研究員・研究設備は上記繰越事業があるので当面は技術組合と併任・併用し、6 月 1 日に移籍・移管の予定。

II. 超電導に関する普及啓発及び国際交流事業

平成 27 年度をもって終了する。平成 28 年度は、要すれば JKA 予算清算等を行う。

なお ISS2015 に係る国際論文誌作成（エルゼビア社）は請負の形で終結させる。

<参考> 普及啓発事業は、産業技術総合研究所／ASCOT（仮称；つくば応用超電導コンステレーションズ＝産総研中心に設立予定の超電導に係るオープンイノベーションの場合）に移管する方向で調整中。

Ⅲ. 超電導に関する国際標準化事業

平成 27 年度をもって終了する。平成 28 年度は、要すれば JKA 予算清算等を行う。

<参考> 従前 ISTEK が務めてきた IEC/TC90 の事務局業務等は、平成 28 年度からは（一社）日本電線工業会に移管され、実施される。

3. その他

ISTEK 事務局を、4 月初旬に現在の KSP から日吉研究所に移転する。KSP 施設明渡しに係る原状回復等を行う。

線材・パワー応用研究部の産総研移転作業を行う（5 月末）。併せ、相模原分室からも必要設備の移転、明渡し・原状回復を行う。

その他、不要設備の廃棄等を行う。

補；解散後は清算業務に移行するが、その詳細は、5 月決算理事会等で決める。